

～教育センターが提案する、全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びへの手立て～

「わかった！」をもたらす個別最適な学び

一体的な充実

「深まった！」のための協働的な学び

個別最適な学びとは？

子ども一人一人に対する「個に応じた指導」（指導の個別化と学習の個性化）を学習者の視点から整理した概念です。そこでは子どもたち自身が自分の学びを自己調整しながら学習を進めていきます。

子どもたちは…課題に対して自ら学び方を選び、学びをデザインし、子ども自身で学習が最適になるように調整する。単元（題材）の中のトピックを子どもたちが決めて、学びを深める。教師は…子ども一人一人に応じた学習活動・課題を提供する。さらに子どもたちの興味・関心が育つような学びの機会を設定する。

**個に応じた指導を
 学習者の視点で捉える！**

一定の目標を全ての子どもが達成することを
 目指し、異なる方法等
 で学習を進めます。

**指導の
 個別化**

子ども一人一人の特性・学習進度・学習到達度等に応じ学習を進めていきます。教師は必要に応じた重点的な指導や指導方法・教材等の工夫を行います。

**学習の
 個性化**

子ども一人一人の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、教師は一人一人に応じた学習活動や課題に取り組む機会の提供を行います。

異なる目標に向けて、学習を深め、広がります。

自分は実験を通して！

自分はタブレットで！

自分は制作を通して！

地域のゴミ問題を考えてみたい！

体幹を鍛えて速く走る方法は？

**自分に合った学び方や進め方で
 自分の学びを探究できる**

Mission
 全ての子どもたちを
 自立した学習者に育てる！

一つの教室の中で、ICTも活用しながら、多様な人材の協働体制によって個別最適な学びと協働的な学びが同時進行しているような「一体的に充実」する姿をめざします。

子どもも！先生も！

2つの学びの中で学んだことを往還させる思考をもつこと

「個別最適な学び」で学んだことや学び方を、「協働的な学び」でさらに深めていく、深まったことをさらに個別最適な学びで追究する学びの流れが生まれるよう、授業を創ることが望まれます。ねらいによって1つの授業の中で、これらの2つが一体的に進められることもあれば、それぞれの授業単位で進められることもあります。

共通するのは

- ①自己調整力(自ら学びを調整する力)
- ②自己決定力(学びをつかみ取る力)

子どもたちが今後一生涯に渡って学び続ける人であるためには、子ども一人一人が学びの主体となり、自律的に学び進められるようにする力が求められています。そのためにも、自分で学びの方向性を見だし、何が必要なか見極め、決定していく力も必要となります。

**子ども自身が自分の学びを獲得できる
 学習者中心のカリキュラムへ！**

協働的な学びとは？

「個別最適な学び」の成果を生かし、探究的な学習や体験活動などを通じ、多様な他者と協働しながら学び学習を進めていきます。一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わせたり、考えが深化するような、よりよい学びを生み出すことを目指します。

相手に伝えるように話すのって難しいな

同じ意見でも大切にしていることが違うことがあるんだな

自分とは違う考え方がたくさんあるな

これ、地域に役に立つ意見かも！

友達の意見を聞いて新しい疑問がわいてきたぞ

正解は一つではないんだな



先生という仕事を懸ける！

先生は子どもの学びの伴走者！

これからの教職員の姿

- ・環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて学び続けている。
- ・子ども一人一人の学びを最大限に引き出す教師としての役割を果たしている。
- ・子どもの主体的な学びを支援する伴走者としての能力を備えている。

**学校ならではの対話を通して
 「納得解」「他者理解」「社会性」を形成できる**

一斉指導か個別学習か、デジタルかアナログか…
両方の良さをうまく使う！使いこなす！

目指すのは**主体的・対話的で深い学び**の実現に向けた授業改善！

家庭学習の充実と ICT

ROUTE 1
ICTを活用して家庭学習の充実を！
 子どもが主体的に学ぶために、ICTも活用しながら家庭と学校の学びを往還させ、家庭での学びを充実させます。

ROUTE 2
子どもの“学びの足跡”から個別最適な学びへ
 ICT (Studylog) を活用し、子どもの学びの課程や学び方の特徴を見つめ直し、個別最適な学びの実現に生かします。

学び方のオーダーメイド

ROUTE 3
子どもが選択！最適な学び
 子どもが自分に最適な学びを自己調整できるよう、教師は様々な「学びの選択肢」を豊かに提供します。

ROUTE 4
自ら学び、考え行動できる力の育成
 学習者自らが課題を見つけ、さらに自ら解決する能力を高める学びの場（例・PBL）を提供します。

いつでもどこでも授業改善

ROUTE 5
まず挑戦 すぐに改善 AAR サイクル
 見通し・行動・振り返りのサイクルで、学びの自己調整力を高めます。

ROUTE 6
資質・能力を育成するためにねらいを明確にした授業を！
 ねらいを明確にし、3つの資質・能力を身に付けるために必要な活動や問いを精選し、授業を組み立てます。

学びの環境

ROUTE 7
これからの教師の役割
 教師がファシリテーターとなり、それぞれの子どもたちの学びをつないで創る授業を展開していきます。

ROUTE 8
一人一人の可能性を伸ばす多様な学び
 児童生徒の多様な学びのニーズに対応し、一人一人が創意工夫できる学びを目指します。

ここならではの教育課程

ROUTE 9
STEAM 教育等の教科横断的な学習の推進
 教科横断的な学習の推進によって、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育成します。

ROUTE 10
多様な学びを広げる宝探しに出かけよう！
 宝（ひと・もの・こと）との連携が学びの協働体制を生み出します。

ちょこっと変えるための 10 のヒント <充 10 実ナビゲーション> もっと詳しく

